

楽しきかな役者人生

植田 信廣 (名誉教授)

「あ・え・い・う・え・お・あ・お…」、今夜も稽古場に発声練習の音が響き渡り、68歳の私も劇団員の1人として大声を張り上げる。1週間の半分以上は夜間の演劇稽古に精を出すというのが私の日課となってもう3年近くなる。そう、いまや私は「土佐のぶゆき」なる役者として演劇活動に精を出す日々を過ごしている。



2015年3月末の定年退職まで32年間「日本法制史」担当教員として九州大学法学部に奉職した私がまさか役者に転身しようとは、我ながら全く思いも寄らないことだった。それ以上に教え子や家族を始めとする周囲の人々の驚きと困惑も並大抵ではなかったはずだ。ちなみに、若い頃から無類の演劇好きを自認してきた私の定年退職後の夢は「晴耕雨読」ならぬ「晴演雨読(日常的に観劇を楽しみつつ読書に勤しむ)」というものだった。それがまさかの明けても暮れても役者三昧(「晴演雨演」)の毎日となってしまったのである。きっかけは退職後ほどなく芝居見物に出かけた「ももちパレス」(福岡市)館内で偶然目に飛び込んできた「シニア演劇教室新規開講」の案内ポスターだった。大きさでもなんでもなく、私は咄嗟に「これからは演ずる側になってみよという天の啓示ではないか」という思いに駆られたのである。

教室に参加してみると、九州を代表する気鋭の劇作・演出家瀧本雄壺氏(何と私の長男より若い!)の卓越した巧みな指導のもと、毎回期待をはるかに上回る充実した授業が展開され、芝居ってこんなに楽しいものなのだ、こんなに奥が深いものなのだと思感させられることの連続だった。この瀧本氏との出会いが私の役者人生を決定づけたといってもいいだろう。そのうち教室仲間の間に自分たちの劇団結成をという機運が盛り上がり、2016年春には8名のメンバーで(60歳以上を中心とする)シニア劇団「かつこん党」を立ち上

げるに至った。劇団名には漢方薬「葛根湯」の如く観客の心に長くじわじわ効いて来るような芝居をという願いが込められている。今ではかつこん党メンバーは16名に増え、これまで瀧本氏の創作コメディを中心にすでに7本の作品を上演するなど、活発な活動を続けている。

一方、役者業の魔力に取り憑かれた私は昨年11月から瀧本氏率いる福岡のプロ劇団「池田商会」にも所属させていただき、この平均年齢30代の若手劇団の中で唯一の高齢メンバーとして皆の足を引っ張りながらも稽古に励んでいる。劇団の入団オーディション面接で「舞台上でパンツ一丁になる覚悟があるか?」と聞かれ、臆面もなく「パンツくらいいつでも脱ぐ覚悟がある」と答えたところ、それはノーサンキューと呆れ顔をされたことも今では愉快的な思い出の一つである。こうして私は、まだギャラこそ稼げないが曲がりなりにもプロの役者の端くれとしてのスタートを切った。

池田商会ではこれまで歴史劇を中心に4本の作品に出演させてもらい、今年9月には5、6作品目となる公演が控えている。当然の如くすべて台詞の数はそう多くない脇役なのだが、70歳近い身には台詞覚えも指示通りの舞台動作もなかなか難しく、自宅や稽古場ではいつも四苦八苦している。いい年齢した元大学教授が在職中の研究のまとめもそっちのけで、2劇団掛け持ちまでして演劇にハマらなくてもよいのに…。しかし、大根役者なりに演劇の魅力に目覚めてしまった私は役者街道まっしぐらで、もうどうにも止まらない。今後も80歳までは役者を続けたいと思っているが、それを言ったら瀧本さんは顔を引きつらせて苦笑いするかもしれない。(写真=前列右端が植田名誉教授)

本年度総会

◆日時 2018(平成30)年10月19日(金)

18:30 受付開始

19:00 総会・懇親会

◆場所 西鉄グランドホテル

福岡市中央区大名2丁目6-60

2階「鳳凰の間」

電話 092 (771)7171

◆会費 8,000円 5,000円(平成21年卒以降)

支部だより

櫻井龍子氏が新会長に就任

— 東京同窓会 —

平成29年11月15日、九大法学部東京同窓会総会・懇親会を弘済会館で開催。出席者は55名(内来賓7名)、昭和卒47名、平成卒8名で、女性は3名参加でした。総会の司会は世戸事務局長。古川治次会長が会長挨拶と開会宣言を行った後、来賓の玉上晃九大理事・事務局長、堀野出九大法科大学院長、大塚博文九大総務部、陶山秀昭法学部同窓会長、杉哲男経済学部同窓会東京支部副支部長、吉元利行経済学部同窓会東京支部事務局長、長清農学部同窓会東京支部長を紹介しました。

同窓会の役員人事として、櫻井龍子副会長が新会長に就任することが承認されました。役員総数は48名。新旧会長挨拶で、古川治次顧問(前会長)は「不易流行」をモットーに皆さまのサポートのお蔭で任務を全うできたことに感謝、今後も新会長と同窓会に助力をお願いします。最近の中国旅行で感じたことは、「一带一路」



新会長に就任した櫻井龍子氏

の実践とIT先進国として日本を凌駕している」ことなどを話されました。

櫻井龍子会長は「昭和45年の労働省(現厚生労働省)から最高裁判事までの仕事人生が終わったが、その間、同窓生との絆が大きな支えでした。同窓会の在り方について皆さんと考えながら任務を遂行して行きたい、ご協力をお願いします」と抱負を語りました。

黒木浩二 2000(平成12)年卒 理事・新事務局長

九州大学法学部東京同窓会事務局
〒102-0054 東京都千代田区神田錦町3-28
学士会館B1 九州大学連絡事務所内
TEL,FAX: 03-5283-8510
E-mail kdhtokyo@horae.dti.ne.jp

本田重寿氏が新支部長に

— 関西支部 —



第27名が参加した第38回関西支部総会

5月26日(土)午後4時からハートンホテル北梅田で、来賓含めて27名に参加いただき、第38回関西支部総会が開催されました。

第1部の総会では、徳永幸彦支部長(昭和35年卒)から退任のご挨拶に続き、本田重寿新支部長(昭和45年卒)の就任挨拶があり、新任者3名を含めた役員の改選がありました。新体制での活動の活発化に期待したいと思います。また、来賓(本学・同窓会本部・東京同窓会・経済学部同窓会関西支部)の方々を紹介され、代表して堀野出法科大学院長から挨拶と法科大学院などの最新の状況についてお話いただきました。

第2部の講演会では、大学の森徳明施設企画課長から「九州大学キャンパス移転整備について」と題して、大学の伊都キャンパスへの移転状況や現状、箱崎地区の今後の活用についてドローンによる撮影映像も用いてご講演いただきました。この秋に文系学部も伊都キャンパスに移転することで、会員の皆さんにも身近なものとして聴いていただけたようです。

第3部の懇親会では、林田崇顧問(昭和33年卒)の音頭による乾杯から始まり、参加者の皆様から近況報告を頂きました。最後は、衛藤和彦さん(昭和54年卒)の先導により学生歌「松原に」を全員で合唱しました。

事務局では名簿の整理を手始めに、会報や行事などに工夫を加え、多くの卒業生間の交流を図っていく所存です。関西在住の方や関西への就職、転勤などで転入される方がいらっしゃいましたら、ぜひ、ご連絡ご紹介いただきますようお願い申し上げます。

稲吉大輔 2001(平成13)年卒 事務局長

関西支部事務局
〒530-0047 大阪市北区西天満2-10-9
T1ビル2階 林田崇法律事務所内
TEL:06-6313-0947 FAX:06-6313-0948

中田氏が二・二六事件の講演 — 熊本支部 —



二・二六事件をテーマに
中田整一氏が講演

平成30年2月6日(火)に熊本ホテルキャッスルで第26回熊本支部総会・懇親会を開催しました。ご来賓の方々を含め、38名の参加でした。

総会では役員改選が行われ、これまで熊本支部の発展に尽力された中川義朗氏が支部長を勇退し、新支部長に村山光信氏が選任されました。

総会後には、ノンフィクション作家、元NHKプロデューサーの中田整一氏(昭和40年卒)より、「二・二六事件 消された真実」という大変興味深い演題で

ご講演いただきました。

懇親会では、法学部同窓会会長の陶山秀昭氏、法学研究院長の村上裕章氏よりご来賓の挨拶をいただき、その後、和気あいあいとした雰囲気の中で歓談、会員スピーチが行われ、懇親会は大いに盛り上がりました。

熊本では、7年前から各学部が集まった「九州大学熊本同窓会」を組織しており、平成29年11月18日(土)に第6回総会が開催されました。総会に先立って開催された市民公開講座では、九州大学理事・副学長の丸野俊一氏と大学院比較社会文化研究院教授の鏑木政彦氏に「九州大学の今とこれから」というテーマでご講演いただきました。

熊本在住の方や熊本への転勤の方で同窓会熊本支部をご存知でない方を、是非ご紹介ご連絡いただければ幸いです。

吉見仁宏 2000年(平成12)年卒

熊本支部事務局

〒860-0041 熊本市中央区細工町1丁目51番地
スコーレビル3階 森高・吉見法律事務所内
TEL:096-273-6362 FAX:096-273-6363
E-mail: masahiroyoshimi1868@yahoo.co.jp

関西で活躍する同窓の皆さん

法学部同窓生が関西の地で公共性の高い仕事に邁進されている。その一人が大阪市長の吉村洋文さん(北野高、1998年卒) =写真(大阪ホームページより)。

卒業の年に司法試験合格。その後、弁護士、大阪市長、衆議院議員。政治家を目指したきっかけは「大阪の古い政治から脱却し、大阪が日本のもう一つの軸となることを目指す新しい大阪をつくりあげる大阪維新の会の理念に共鳴したから」とのこと。

大学時代の思い出は「大阪から出て初めての一人暮らし。当時の彼女と大濠公園に行ったり、百道浜に行ったり、ないお金でラーメンを食べたり。まさに青春時代を過ごした大好きな土地が福岡。街の人も優しい」

また、若い世代へは「九大出身の若者へ。ちょっ



と元気ないんじゃないの?失敗を恐れる必要はない。挑戦して、たとえ失敗してもゼロになるだけでマイナスにはならない。自ら挑戦して失敗することは、何もしないことより、価値がある。常に挑戦者であれ。結果は後からついてくる」と檄を飛ばして頂いた。

そのほかに関西では、JR西日本社長の来島達夫さん(下関西高、1978年卒)や今年2月に大阪高検検事長に就任した上野友慈さん(修猷館、1981年卒)も活躍されている。

点描 伊都キャンパス



イースト2号館。正面が法学部、右側が経済学部

[新任教員の自己紹介]

歴史的転換期に着任して

2018年4月に行政法担当准教授として着任いたしました。1996年に本学法学部を卒業し、大学院で学んだ後、熊本大学に17年間勤務し、箱崎キャンパスに戻って参りました。自身が9年間過ごした学舎は、時を経て変わったところが随所に見られるものの、意外なほどに多く当時の面影を残していました。箱崎キャンパス最後の最後に接することができ、本当に幸運に恵まれたものだと感じました。

これからは伊都キャンパスにて、九州大学法学部の歴史に新しいページが加えられます。また法科大学院については一足先に、懐かしい六本松の地にて新たなスタートが切られています。このような大転換期の流れに身を任せつつも、自身にできることは何かを冷静に考えながら、教育・研究をはじめとする多面的な役割を全力で果たしてゆきたいと考えております。



公法学講座
大脇 成昭

母校に些かでも貢献できれば

本年4月1日付けで商法担当の教授として着任いたしました徳本穰と申します。福岡で生まれ育ち、1990年に九州大学法学部を卒業いたしました。その後、九州大学大学院法学研究科にて修士(法学)及び博士(法学)、米国イェール大学ロースクールにてLL.M.の学位をそれぞれ取得いたしました。米国イェール大学ロースクールにて客員研究員、文部省在外研究員。九州大学法学部助手、琉球大学法文学部助教授、専修大学法科大学院助教授、筑波大学大学院教授などを経て、母校であります本学に着任いたしました。



民事法学講座
徳本 穰

専攻分野は、商法、企業法で、特に、商法、会社法、金融商品取引法、経済特区法制、国際企業法などの領域を主に研究しています。これまで、企業買収やコーポレート・ガバナンスなどの法的課題を中心に研究してきましたが、企業の誘致・進出や経済特区をめぐる法的課題の研究や法整備支援などにも従事しています。微力ではございますが、母校のために些かでも貢献できればと存じております。

情報法は学際的な法分野

はじめまして。愛知で生まれ育ち、東京で学生生活を送り、東京大学大学院学際情報学府博士課程単位修得退学後、東京大学大学院情報学環助教、総務省情報通信政策研究所主任研究官などを経て、本年3月に情報法担当の准教授として着任いたしました。専門は情報法で、特にインターネット上の表現の自由やプライバシーに関する法的問題を研究してきましたが、最近では人工知能(AI)・ロボットに関する法的問題の研究にも取り組んでいます。



基礎法学講座
成原 慧

法学部・法学研究院では、情報法の研究を進めるとともに、情報法の講義や基礎演習など教育に励んでおります。私は、本年度からスタートした文系4学部の副専攻プログラムにも関わっており、運営のお手伝いをするとともに、プログラム向けに講義も提供しています。情報法は、学際的な法分野であり、憲法や民法など法学の各分野はもとより、経済学やメディア史など人文社会科学、情報工学など理工系の学問とも関わり合いをもっています。学部横断的な知的交流が活発化している本学の学際的な環境の下で、今後も研究・教育に邁進して参りたいと思います。

法学部・法学研究院では、情報法の研究を進めるとともに、情報法の講義や基礎演習など教育に励んでおります。私は、本年度からスタートした文系4学部の副専攻プログラムにも関わっており、運営のお手伝いをするとともに、プログラム向けに講義も提供しています。情報法は、学際的な法分野であり、憲法や民法など法学の各分野はもとより、経済学やメディア史など人文社会科学、情報工学など理工系の学問とも関わり合いをもっています。学部横断的な知的交流が活発化している本学の学際的な環境の下で、今後も研究・教育に邁進して参りたいと思います。

◎同窓会費納入のお願い◎

ただいま、2018年の会費を受け付けています(昨年度から、1年ごと2,000円に変更しています)。振込手数料については同窓会の方で負担します。

運営経費の節約に努めておりますが、皆様からの会費収入が唯一の財源です。ご協力をお願いいたします。

世界遺産はイコモスの大きな仕事

日本人初の国際イコモス会長 **河野 俊行** 教授

世界文化遺産の登録審査を担うのが、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の諮問機関の一つである国際記念物遺跡会議（国際イコモス）です。2017年12月に日本人として初めて国際イコモスの会長に就任した河野俊行さん（九州大学大学院法学研究院教授・主幹教授）にイコモスでの仕事について聞きました。



全体の一貫性を保つためのガバナンス

イコモスは100以上の国に支部をもち、文化遺産保護に携わる専門家である会員は1万人を超えます。会員は各国国内委員会や国際学術委員会で活動していますが、組織全体のガバナンスの仕事がまず重要な仕事です。またイコモスの大きな仕事として世界文化遺産に関する用務があります。登録審査だけではなく、登録後のモニタリングや報告も含め、継続的に関わります。世界遺産を巡る政治的な状況も変わっているので微妙な判断も求められます。

イコモスは高いレベルの専門性を多様かつグローバ

ルに有していますが、新しいタイプの文化遺産の考え方とか、既存の理論が想定していなかった状況に置かれた場合の対応もふくめ、文化遺産の知的インフラを更新し、支えることも重要です。さらにイコモスの外で起こっていることにも対処しなければならない。例えば、国連が設けている持続ある開発目標SDGs 2030に文化遺産がどういうふうに絡むのかという課題があります。

ボランティアで無報酬、旅費も出ない

私のエフォートの相当程度をイコモスのために使っています。またイコモスは基本的にボランティア団体ですので、役員は全員無報酬ですし、旅費も出ません。九大がサポートしてくださっていることに大変感謝しています。

世界遺産は条約ですが、その条約の運用指針が2年に1回改定されます。そこが変わると実務も動いていきます。基本的にはルールづくりとケースローの形成に関わっていると考えると分かりやすいでしょう。そうするとこれは法の世界です。各国の事例を見ても、都市計画法などの法の知識がないと分かりにくいことが多々ありますが、今の役員で法律家は私だけです。

会長就任前の想定をはるかに超える質と量の仕事になりましたが、着実にこなしつつ前に進んでいきたいと思えます。

福岡市で比較法国際アカデミー国際会議

75カ超の国から832名参加

2018年7月22日から28日まで、第20回比較法国際アカデミー国際会議（組織委員長河野俊行主幹教授）が、東アジアで初めて、椎木講堂ほか福岡市内4カ所の会場で開催された。

22日はタイ、フィリピン、日本の最高裁からスピーカーを招き、アクロス福岡にて裁判官教育に関するパネルディスカッションを開催、翌23日に椎木講堂で執り行われた開会式では、秋篠宮殿下、松山政司内閣府担当特命大臣、山口厚最高裁判事、小川洋福岡県知事、久保総長からお言葉をいただいたほか、カタリーナ・ブーレヴェルキ比較法国際アカデミー会長、山極寿一日本学術会議会長、河野教授が歓迎の辞を述べた。

学術面ではスーザン・キーフェル豪州最高裁長官の

基調講演に始まり、椎木講堂と福岡国際会議場にて、40を超えるセッションで活発な議論が展開された。なかでも九大が主導した、シェアリングエコノミー、ビッグ・データ、テクノロジーと法を総合的に取り扱うコンGRESS・イン・コンGRESSは高い評価を受けた。75カ超の国々から832名の参加者を得て、同アカデミーとしても近年最大規模の学会であった。

アトラクションとしては、KIMONOプロジェクトの華やかな着物ショーにはじまり、ジャパン・マーベラスの圧倒的な和太鼓の演奏で締める、福岡にこだわった演出で、これまでで最高の会議であったとの賛辞も組織委員会に寄せられている。

7月28日には、福岡大学メディカルホールで、ブーレヴェルキ会長、村木厚子・元厚労省事務次官、水野紀子・東北大学教授をパネリスト、原田直子・元福岡県弁護士会会長を司会とする市民フォーラム「ひとり親家庭の貧困～比較法にその解決の糸口を求めて」が開催され一般市民にも成果がシェアされた。

OB・OG探訪 法律、そして文化に関わる

福岡県人づくり・県民生活部文化振興課長
兼九州国立博物館室長

上田 哲子さん 1987(昭和62)年卒



昨年4月から、福岡県文化振興課長。業務は県全体の文化の振興です。文化面で頑張っている方を支援したり、発表の機会や鑑賞の機会を作ったりするのがベースにあります。2019年のラグビーW杯とい

った世界大会などで、外国の方や県外の方がたくさん福岡県に来られます。そういった方に福岡の文化の魅力を発信するのが、新しい文化のテーマです。

福岡県は産業につながる伝統文化が多いところの一つの魅力。新しいアートで活躍している人も増えています。そして食文化。それらを組み合わせた体験プログラムが、外国の方に受けるのではないのでしょうか。

職業診断テストを受けて、出たのは正義

昭和39年、北九州市門司区生まれ。高校で職業診断テストのようなものを受けて、特性が正義と出ました。社会的な事件では新聞記事やニュースよりも、裁判の過程や判決、社会の論評に興味があったような気がします。そういう感覚で自然と法学部を選びました。昭和58年4月に入学。その当時は女子学生は少なく、学年で二桁になったと話題になった記憶があります。

ゼミは商法の今井先生。松法会という司法試験の受験団体に入っていて、学年を超えて先輩や卒業生からお話を伺ったことが一番心に残っています。個人の家庭教師のアルバイトを4年間、同じ女子を中3から高3まで受け持ったことが人生勉強になりましたね。当時、九大は自由な雰囲気でしたし、先輩と後輩がすぐくつながりがあったような気がします。

法律が社会で生きていることが分かる

男女雇用機会均等法の施行後の第1期生です。民間の窓口は広く、何社か受けて内定もいただきました。そうはいえども、社会に出たら男女の壁はあるのだらうなどと就職活動をしながら感じることもありました。公務員は男女あまり隔たりなく仕事ができるのではないかという期待を持って、公務員を選びました。行政職で入ったのですが、昨年文化振興課に来るまでずっと教育行政の方にいました。

平成15年に教職員課の職員係長。何をするかというと、学校での事故などで学校が訴えられたときの訟務事務や、教職員に関する法律問題の相談を受けるところだったので、法学部を出ていて良かったなと思いました。法律はこうなっています、本にはこう書いていますでは終わらないところで解決しなければなりません。事案ごとに法律や判例を生かしたり適用させたりして理屈を立てていきます。法律は、こういうことで社会に生きているということを学びました。

その後、社会教育課の係長になり、主に文化関係の仕事をしました。法律とは全く違う分野で、美術関係を勉強して、公私ともに全国の美術館にできるだけ行きました。その後いろいろな分野の仕事をしてきましたが、この時学んだことが今の仕事につながっています。

箱崎キャンパス惜別の会 「大人のオープンキャンパス」

2018年3月24日、法学部同窓会、法学研究院共催で、2018年度前期で閉鎖される箱崎キャンパスとの惜別の会を実施した。

大講義室では、金田久仁彦氏と和仁かや先生の対談「戦前～戦後直後の箱崎と九大キャンパスの思い出」、河野俊行先生によるミニレクチャー「世界遺産を守るとはどういうことか～最近の事例から」、徳本穰先生によるミニレクチャー「商法における今日的課題～企業買収をめぐる」が開催され、いずれも貴重なお話で、同窓生も熱心に聞いていた。また、生協ではカレ

ーと六本松の軽食で人気だった「ジロー風スパ」が復活し、九大グッズも売り切れが続出した。

さらに研究院長室では、「九大法学部のお宝展」と称し政治学史、国際法、日本法制史、ローマ法の各分野から貴重書などが展示されたほか、101教室では最近の法学部／法学府の取り組みのポスター展示があり、現役学生との交流が生まれた。

加えて、中央図書館のタイアップ企画「金田平一郎と九州大学附属図書館」は九大法文学部の成り立ちや役割を考えさせる好機であった。

当日福岡空港閉鎖のアクシデントがあったものの、150名を超える同窓諸兄姉の参加を得る事が出来た。ご協力下さった皆様に心より感謝申し上げます。

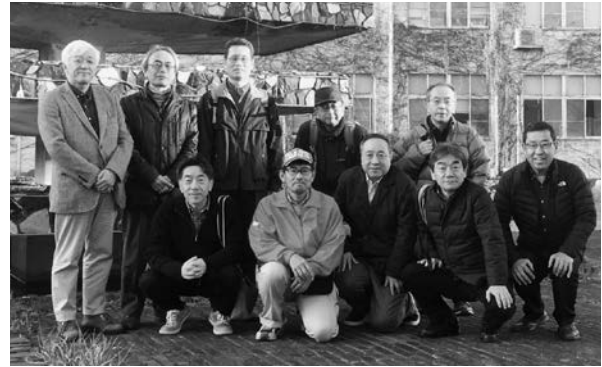
箱崎キャンパスを惜しみ、思う

日永田 実 1981(昭和56)年卒、会社経営

箱崎キャンパスの閉鎖を惜しみ、平成30年3月17日、昭和52年入学のL1-6クラス法学部の仲間がキャンパスに集いました。中庭に噴水のあるキャンパスの変化を確認し、多くの建物が解体された農学部、工学部のキャンパスから正門を抜けて、田中丸晃、田辺太郎、道喜斗識、都合雅彦、野中富夫、野原峯明、濱武文雄、林周毅、林敏朗、原節治、日永田実(50音順)の11名が懐かしの居酒屋「対州」に向かいました。いつも何かと理由をつけては場所を変えて集っています。

僕たちはこのキャンパスを起点にし、この社会で凡そ40年の歳月を生きて還暦を迎え、仲間の幾人かは若き日に時の流れの岸辺に降りてしまいました。「せめて思い出のキャンパスに時を重ねてほしい」と願うのは初老の感傷でしょう。平成21年9月に六本松キャンパスが伊都地区へ移転し、母校の学部が次々とこの地で新たな歴史を刻んでいます。八風吹くなかで大きな決断をされた関係者の方々の覚悟に敬意を表し、後輩たちには、伊都のまちを故郷の学び舎として大いに学び友情を育ててもらいたいと心から願います。

思い出のキャンパスを失って残念なことになっても、こうして同窓の仲間と集う場を持てることは幸福なことだと感じています。同窓の仲間と集うことは、過去の思い出にしがみつ়くことではなく、むしろ今の自分を受け入れ、今を楽しむという構えを持っていることだと思います。還暦を迎え、一方で「自分にはやり残した多くのことがある」。そんな思いも強く抱きます。そんな自分に向き合うために「なりたかった自分」を思い起こし、「なってしまった自分」をありのままに映



法文系キャンパスで記念撮影(筆者右端)

す鏡がほしいものです。時を重ねるにつれて自分を映す鏡が歪み、曇ってきたことに気付くことは容易ではない。ここは、そんな過去と今の自分の姿を映し出し、それを「肴」にして楽しめる格好の時空になっています。それは自分の内面ばかりでなく、社会とのかかわりについても同じだと思います。

パソコンもインターネットもスマホもなく、世界が東西に分断されていたあの頃、不安を抱きつつ社会に飛び込み、世紀を超えて思い描いた未来が今ここに続いています。生きるためとはいえ、ここに至る道程で経済成長の名のもとに資源を先食いし、環境破壊と国家財政破たんの片棒を何らかの形で担いできた責任は軽くはない。還暦を過ぎたオッサンが、先行く世代を逃げ切り世代などと揶揄することも気恥ずかしい。僕たち世代は、「表出する悪よりも組織のシステムや命令を無批判に受け入れ行動することこそ隠れたる大悪なのだ」と社会の中で身をもって経験してきました。いまだに多くの組織でそんな風土が根強く蔓延り、延々形を変えて繰り返し後輩たちを苦しめている現実から目を背けることができません。次の人生のステージに向かう段階にあつて、この愛おしく大切な仲間との時間とともに自分の「やり残した多くのこと」に気づかされることも大きな収穫だったのかもしれない。

点描 九州大学法科大学院



複合施設「六本松421」の3階に法科大学院



法廷をイメージした「法廷教室」での授業



学生が自分のスペースで勉強できる「学修室」

2017年度卒業生・進学・就職状況

※2018年5月1日現在、()内は女子で内数

企業	人数
IDOM	1
JFEスチール	1
KDDI	1
NTTドコモ	1 (1)
NTT西日本	1
TKC	1
麻生	1 (1)
あまた	1 (1)
旭化成	1
朝日生命保険	1
アメリカンファミリー生命保険	1
イズミ	1
オービック	1
大分銀行	1
オリゾン	1
ガスバル九州	1
九州電力	2 (2)
九州旅客鉄道	1
九電工	2
熊本日日新聞社	1 (1)
クリアスライフ	1
警察共済組合	1
コンピュータ・アソシエイツ	1
SKY	1 (1)
シンカ	1
新日鐵住金	2 (1)
住友電気工業	1
ゼネラルアサヒ	1
全国共済農業組合連合会	1 (1)
ソディック	1
太平電業	1
大和証券	1
大和ライフネクスト	1
大和リビングマネジメント	1 (1)
竹中工務店	1
田村駒	1
帝国ホテル	1
電源開発	1
東具	1
長崎大学	1 (1)
南国殖産	1
西日本建設業保証	1
西日本新聞社	1 (1)
ニチイ学館	1
ニトリ	1
日本銀行	1
日本経営	1
日本司法支援センター(法テラス)	1
日本政策金融公庫	1

日本生命保険	2
日本通運	1
日本放送協会	2
日本郵便	1
野村證券	1
はま寿司	1 (1)
日立コンサルティング	1
日立製作所	1 (1)
フォレストヴィラホーム	1
福岡銀行	2 (1)
ふくおかフィナンシャルグループ	1
富士ソフト	1 (1)
プリチストーン	1 (1)
ミスターマックス	1
みずほフィナンシャルグループ	1
三井倉庫九州	1 (1)
三菱倉庫	1
三菱総研DCS	1
三菱電機	1
三菱東京UFJ銀行	3 (1)
モードプランニングジャパン	1
山口フィナンシャルグループ	1
山本特許法律事務所	1 (1)
リクルート	1
リンクアンドモチベーション	2
リンクイベントプロデュース	1
ライブル	1 (1)
計	85 (21)

公務員	人数
鹿児島地方裁判所	1 (1)
九州管区行政評価局	1 (1)
九州厚生局	1 (1)
九州防衛局	1 (1)
検察庁	2 (2)
皇宮警察本部	1
国税庁	1
裁判所事務官	1 (1)
財務省財務局	1
総務省	2 (1)
中国四国厚生局	1 (1)
農林水産省	1 (1)
広島法務局	1
福岡高等裁判所	2 (1)
福岡国税局	2 (2)
福岡財務支局	1 (1)
福岡地方検察庁	3 (3)
福岡地方裁判所	1
福岡入国管理局	1 (1)
福岡法務局	1 (1)

門司税関	1 (1)
大分県	2
大牟田市	1
鹿児島県	1 (1)
倉敷市	1
長崎県	2 (1)
長崎市	2 (2)
広島県福山市	1
福岡県	8 (1)
福岡県警察	2 (2)
福岡県那珂川町	1 (1)
福岡市	5 (5)
山口市	1 (1)
計	54 (34)

進学	人数
九州大学法学府	6 (3)
九州大学法科大学院	16 (4)
九州大学人文科学府	1
九州大学地球社会統合科学府	1
大阪大学法科大学院	1
京都大学法科大学院	1
神戸大学法科大学院	1
東京大学公共政策大学院	1
東京大学法科大学院	1
同志社大学法科大学院	1 (1)
早稲田大学法科大学院	1
明治大学法科大学院	1
計	32 (8)

九州大学法学部同窓会収支報告書

[2016(平成28)年9月1日～2017(平成29)年8月31日]

◎経常会計

収入		支出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越	1,637,513	会議費	88,470
年会費	697,500	会報費	305,420
準会員会費	170,000	会員情報管理費	95,612
名簿代	0	印刷費	518,440
預金利息	18	発送費	669,191
懇親会残金	0	発送手数料	193,984
百年史売上	1,500	補助金	520,000
		旅費	139,810
財政強化資金より振替	4,650,117	謝金	0
		通信連絡費	92,698
		消耗品費	5,394
		雑費	200,163
		百年史仕入	0
		計	2,829,182
		次年度繰越	4,327,466
合計	7,156,648	合計	7,156,648

◎財政強化資金

収入		支出	
事項	金額(円)	事項	金額(円)
前年度繰越	4,649,190	経常会計へ振替	4,650,117
利息	927	次年度繰越	
合計	4,650,117	合計	0

次年度繰越総額 4,327,466

《編集後記》

☆ついに伊都キャンパスへ移転いたしました。法学部は新中央図書館の上の高台、イースト2号館にあります。椎木講堂も近いです。レストランもあります。西のかたにも見知った顔はありますので、是非、お立ち寄りください。(Y.H)

☆今夏、文系学部の移転を控えた伊都キャンパスを初めて訪れました。広大な丘陵地を開発したキャンパスの一番東にあるイースト2号館が法学部と経済学部の建物。中央部分が2階までの吹き抜けで、両側に講義室や演習室を配置しているのが印象的でした。新キャンパスでの学生たちの学びを応援します。(K.K)